WF

直前講習

解答

Z会東大進学教室

直前一橋大世界史総合演習

【2回目】

問題

【1】

解答

オーストリア継承戦争でオーストリアからシュレジエンを獲得したプロイセンは，３度にわたるポーランド分割に参加して東へ領土を拡大した。ナポレオン戦争期のティルジット条約で東部の旧ポーランド領にワルシャワ大公国が建てられ，ウィーン会議でも，その地に事実上のロシア領となるポーランド立憲王国の形成が決められたため，国境は西へ移動した。第一次世界大戦後にはヴェルサイユ条約でポーランド回廊を失い，国土は二分された。ナチス政権はヴェルサイユ体制の打破を掲げて東方へ進出し，1938 年にオーストリアを併合，ミュンヘン会談でチェコスロヴァキアからズデーテン地方を獲得した。1939 年にはチェコを併合し，独ソ不可侵条約の秘密条項でポーランドの分割を行った。しかし，第二次世界大戦の敗北によりドイツの領土は縮小し，オーデル川とナイセ川をポーランドとの国境と定められた。ドイツは西ドイツのブラントによる東方外交でこれを承認した。(399 字)

解説

ドイツ国家の膨張と縮小について確認する。なお，解説で言及するのは東部国境のみではない。

神聖ローマ帝国の時代から，ドイツ国家は東方植民を行って領土を拡大していった。なかでも，ドイツ騎士団の存在は忘れるわけにはいかない。1190 年にアッコンで設立されたドイツ騎士団は，13 世紀頃から東方植民を推進し，大規模な領土を獲得した。14 世紀にはポーランドとの対立が激しくなり，ポーランドとリトアニアが合併して成立したヤゲウォ朝にタンネンベルクの戦い（1410）で敗れた。その後，ドイツ騎士団領は，16 世紀にルター派を受入れ，プロイセン公国を形成した。プロイセンはブランデンブルクと合併する形で 1618 年にブランデンブルク = プロイセンとなり，1648 年にウェストファリア条約で領土を拡大した（東ポンメルンなどを獲得)。この国はスペイン継承戦争（1701 ～ 13）が勃発した 1701 年にプロイセン王国と改称した。

同じくゲルマン人王朝のハプスブルク帝国すなわちオーストリアも，三十年戦争後にドナウ川流域へ進出していった。1683 年に起こった第２次ウィーン包囲を退け, 99 年のカルロヴィッツ条約でオスマン帝国からハンガリーを獲得した。また，第１回と第３回のポーランド分割にも参加し，領土を獲得した。

プロイセンは，オーストリア継承戦争（1740 ～ 48）でオーストリアからシュレジエンを獲得し，七年戦争（1756 ～ 63）でもこれを守り抜いた。ポーランド分割に３回とも参加したプロイセンだが，ナポレオン戦争では領土を大幅に割譲させられ，プロイセン領ポーランドにはワルシャワ大公国が建てられた（“ティルジットの屈辱”)。ウィーン会議でも，ポーランドにはロシア皇帝が国王を兼ねるポーランド立憲王国が建国され，失ったポーランド領は復活しなかったが，ザクセン地方とラインラントを入手することに成功し，プロイセンは西方へ広がった。ラインラントでは産業革命がいち早く興り，これがのちのドイツ関税同盟の発足（1834）においてプロイセンが中心となった背景になっている。ドイツ統一への動きが高まる中，普墺戦争（プロイセン = オーストリア戦争；1866）を経てプロイセン主導で北ドイツが統一され，普仏戦争（プロイセン = フランス戦争；1870 ～ 71）において南ドイツを併合してドイツを統一しただけでなく，アルザス・ロレーヌも獲得した。

第一次世界大戦後に，西部国境ではアルザス・ロレーヌを失ったほか，ベルギーなどにも多少の領土を奪われ，ザールは国際管理下に置かれた。東部国境では東プロイセンがポーランド回廊（ポズナニ地方北部・西プロイセン）によって分断された。ヴェルサイユ体制打破を唱えるナチス政権は，ドイツの「統一」を主張して 1935 年に住民投票を行い，ザールをドイツに復帰させた。以後の経過は解答例を見てほしい。1990 年に東西ドイツが統一されたものの，この姿は 19 世紀以降のドイツ国家のなかでも決して大きい領土ではないことがわかる。

ドイツ史を通史で確認するのは領土の変遷だけではない。国際関係でいえば，英独関係，仏独関係，独露（ソ）関係，そして米独関係が重要である。それぞれをもう一度確認しておくとよい。もちろんドイツ関連の王道である統一のあり方についての話を忘れてはならないのはいうまでもない。

【配点の目安】（配点　50 点）

①オーストリア継承戦争でオーストリアからシュレジエンを獲得した（６点）
②３度にわたるポーランド分割に参加した（６点）
③ティルジット条約で旧ポーランド領にワルシャワ大公国が建てられた（６点）
④ウィーン会議でポーランド立憲王国が建てられた（ため，領土は縮小されたままであった）（６点）
⑤第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約で領土が縮小された（４点）
⑥ナチス政権はオーストリアを併合した（４点）
⑦ミュンヘン会談でチェコスロヴァキアからズデーテン地方を獲得した（６点）
⑧（独ソ不可侵条約の秘密条項で）ポーランドの分割を行った（４点）
⑨第二次世界大戦後，オーデル川とナイセ川をポーランドとの国境と定められた（４点）
⑩西ドイツのブラントによる東方外交でこの国境を受け入れた（４点）

【2】

解答

⑴　袁世凱の専制に反対して起こった第二革命が失敗すると，孫文は東京で中華革命党を組織した。1919 年に五・四運動が起こると，孫文は大衆運動の必要性を感じ，中華革命党を改組して中国国民党を創設した。ソ連・コミンテルンからの働きかけもあって，孫文は中国共産党との合作に当たり，1924 年に広州で開かれた国民党大会において国民党組織の再編とともに連ソ・容共・扶助工農の三大綱領を掲げて国民革命へと展開させた。(196 字)

⑵　1922 年にスルタン制が廃止されてオスマン帝国が滅亡すると，23 年にムスタファ＝ケマルはトルコ共和国の建国を宣言した。彼は 1920 年のセーヴル条約を破棄してローザンヌ条約を結び，主権回復に成功した。国内では政教分離の方針の下，イスラーム法・カリフ制を廃止し，1924 年には共和国憲法を公布した。さらに，女性の地位向上，ローマ字の採用などの教育改革，太陽暦の採用，トルコ帽やチャドルの禁止といった社会的改革も進めた。(200 字)

解説

⑴　アヘン戦争から1920年代までの中国史は，一橋大の世界史第３問の定番といってよい。過去問をしっかりやっていれば，ほぼ同じ時代・内容が出題されることがあることにも気づいているだろう。

孫文が中国同盟会を設立する話は1997年度に出題されている。国民革命の開始については1999年度に出題されている。本問では，その間の期間を問うている。第二革命→中華革命党→五・四運動以後，大衆運動の重要性から中国国民党を創設→ソ連との接近というところをできるだけ丁寧に書いていくことになる。

但し，最大のネックとなるのは，「国民革命」の語を知らない人がかなりいるであろうことである。これがわからないといつまで書けばいいか，ということが見えないために，論述の終点が見えなくなる。

因みに，国民革命がいつから始まるかは厳密にはいえないが，一般的には第一次国共合作からとされている。リード文にも最後のセンテンスで「軍閥割拠の状態は国民革命が進められる中で解消していった」とあるように北伐開始をほのめかしているのだから，国民革命の語を知らなくても，なんとか国共合作まで書くのかな，と勇気を持って決断してほしい。

⑵　トルコ共和国のムスタファ＝ケマル（ケマル＝パシャ）のことを問われていることに気づいたら，解答の方向性はほぼ定まるだろう。この時期にはイランのパフレヴィー朝でもケマルを模倣した改革が行われているので，そちらを書くこともできるが，制限字数から見て，無難にトルコを選ぶのがよいだろう。

「近代化のための主な改革内容」で失点することは避けたいが，「建国過程」について言及することを忘れてはならない。「改革内容」はいざとなったら削ることもできるので，「建国過程」をしっかりと固めてから，「改革内容」の方で字数調整をしたい。バランスをとるならば，「建国過程」と「改革内容」は１：１の比率で述べられるとよいだろう。

【配点の目安】（配点　50点）

⑴（25点）

①袁世凱の専制に反対して第二革命が起こった（が失敗した）（４点）

②孫文は中華革命党を組織した（５点）

③五・四運動が起こると，孫文は大衆運動の必要性を感じ，中華革命党を改組して中国国民党を創設した（６点）

④ソ連・コミンテルンからの働きかけもあって，孫文は中国共産党との合作に踏み切った（６点）

⑤連ソ・容共・扶助工農の三大綱領を掲げた（４点）

⑵（25点）

①ムスタファ＝ケマル（ケマル＝パシャ）の名を挙げる（５点）

②オスマン帝国が滅亡し，トルコ共和国が建国された（４点）

③セーヴル条約を破棄してローザンヌ条約を結び，主権を回復した（７点）

④国内の改革の内容として，次のうち３つ以上挙げる（３点×３＝９点）

・政教分離がはかられた　・イスラーム法・カリフ制が廃止された　・共和国憲法の公布
・女性の地位向上　・ローマ字の採用　・太陽暦の採用　・トルコ帽やチャドルの禁止

WF

直前一橋大世界史総合演習

【2回目】

Z-KAI

会員番号		氏　名	

不許複製